

脳科学の専門的知識を持ち、社会で活躍できる人材の育成を、東北大は今年度から本格的にスタートさせる。

脳科学者

脳科学を学ぶ大学院生らに、将来、国際的な脳研究者になるだけでなく、行政や企業などに就職した場合でも生かせる知識と技術を習得してもらうのが狙い。一般市民と若手研究者が直接対話する脳科学版のサイエンスカフェも計画している。

で連携を深めてきた。

今年、国際的に卓越した教育研究拠点を支援する文部科学省の「グローバルCOEプログラム」に、同大の脳神経科学者14人で構成する「脳神経科学を社会に還元する教育研究拠点」(拠点リーダー)大隅典子・同大大学院医学系研究科教授が採択された。この予算を基に今後5年間、脳科学にかかわる人材育成を進める。

同プログラムでは、脳研究を行う大学院生や若手研究者ら100人以上に経済

同大には、遺伝子レベルから認知科学まで脳神経科学のほとんどの分野を網羅する研究者集団がいる。これまで研究者同士の情報交換を行う同大の「脳研究者プラットフォーム」など

同プログラムでは、脳研究を行う大学院生や若手研究者ら100人以上に経済

就業体験、市民と対話、留学支援

「多方面で活躍」へ道

的支援を行うほか、一人ひとりに合った教育プログラムの提供や就職支援などを行う。また、一般の人向けの模擬実験講座やサイエンスカフェなどを開き、若手研究者が社会と交流する機会を増やす。博士号取得者らの就職を支援するため、企業や行政、博物館へのインターンシップ(就業体験)などを行う「キャリアパス支援室」も設ける。

一方、日本人の短期留学、国際会議出席の旅費や、海外の優秀な留学生を受け入れるための渡航費などを補助する目的で、支倉常長の名をとった「支倉フェローシップ(研究奨励制度)」も新設する。

東北大100年

大隅・拠点リーダーは「大学院生はこれまで研究室の中に閉じこもり、視野が狭くなりがちだった。研究者以外にも、将来さまざまな分野で活躍できる人材を育成・供給する拠点にしていきたい」と話している。



「脳神経科学を社会に還元する教育研究拠点」の拠点リーダーを務める大隅典子教授